

令和7年度 第3回 学校運営協議会 議事録

1 概要

- (1) 日 時 令和8年2月12日(木) 午後2時30分から16時30分まで
- (2) 場 所 富士東高等学校 応接室
- (3) 出席者 学校運営協議会委員（6人中 5人出席）
校長、副校長、教頭、事務長

2 議事等

(1) 校長挨拶

第3回学校運営協議会ということで、皆様の評価をいただき、また来年の準備をすすめていく。本日は、しのめ探究成果発表会を御覧いただき、その後で詳しい説明を次第の通りさせていただきます。

本校は、来年度は4クラスずつ12クラスとなる。富士・富士宮地区は生徒が大幅に減であるが、学習・進路・探究活動・部活動・共生教育という柱で学校教育を進めて行く。DXハイスクールや三菱みらい財団からも支援をいただき、これから求められる人材の育成をおこなっていく。

部活動では野球部が県ベスト8、女子バスケット部は23年ぶりに県大会に出場した。生徒募集は、本校だけでなく県内の学校においても大きな課題の1つである。中学生の減少、私立高校への支援の充実から私立に流れる傾向はあるだろう。これから厳しい状況になっていく。グランドデザインでは数年後に新高校を立ち上げるということで検討が始まっている。

今年創立48年、再来年が50周年、活力ある50周年を迎えるための準備をし始めようとしている。同窓会・後援会と協力してどう学校をアピールしていくか考えていきたい。

コンプライアンスの徹底、不祥事を防止するというところで1年間やってきて、今のところ大きな事故・事件は本校にはない。保護者や地域から信頼される学校づくりに努める。

来年度もいろいろな取り組みをしていく。地域の中学生や住民にも発信を強化して、連携しつつ学校の活性化を図っていく。本日はご助言をよろしく申し上げます。

(2) 校内参観 「総合的な探究の時間」見学

(3) 議事

ア 学校運営計画自己評価・学校評価アンケート結果(生徒・保護者・教職員)について
(副校長)

【学校評価アンケート】

生徒、保護者、教職員へアンケートをとり、それをもとに自己評価をつけた。3者比較、前年度との比較を説明

【学習状況アンケート】

生徒に対してアンケート調査した学習に関する状況を説明

イ 令和7年度 後期の取組報告(副校長)

探究学習の推進のための探究コンソーシアムの立上げ、教育課程の見直し、DXハイスクールとしての取組、さらに次年度以降に計画している生徒台湾交流事業のための職員視察や、教職員研修の実施状況を報告した。加えて、自転車通学時におけるヘルメット着用の推進状況、富士東分校との交流についても説明した。

ウ 3年生の進路状況(副校長)

現時点までの3年生の進路状況、大学入学共通テスト結果(平均点等)について報告した。

エ 部活動報告（教頭）

10月から1月までの部活動の大会結果等を報告した。また、情報番組ZIPの青春SPARK部に新聞部、吹奏楽部、女子バスケットボール部、分校のサステナブル班が出演することを報告した。

オ 意見交換等（本校に対する御意見・御要望）

(ア) 先生方の熱意を感じる。見学した探究では先生方の生徒への質問の促しや熱心な関わりが生徒たちの探究活動にうまく繋がっていた。生徒たちの物事の捉え方の視点が面白かった。

台湾については学校の先を見据えた上での動きがスムーズでスピーディであると感じる。

高校生議会に関わらせていただいたが、担当の先生方が非常に熱心で、高校生の視点が面白かった。実際の議場では、自分の言葉で答弁やその場のやり取りができていた。去年の富士東高生の代表議員たち4名がみんな来ていて、議場から自分たちの後輩を見守っていたのには感動した。挨拶もしてくれて嬉しかった。（委員A）

(イ) 探究発表会のテーマ一覧が手元にあったら嬉しかった。テーマ一覧を累積で重ねていき、先輩たちの資料を見ることができればさらに深まる探究ができる。過去の成果物をためて見ることができようになるとよい。研究を引き継げる探究もおもしろいのではないか。

体育のGPSの活用は早稲田のスポーツ科学でも同じことをやっている。大学でもやっているとわかると進学するときの自分のイメージにも繋がっていくと思う。自分の調べたいことだけではなく、テーマ自体を調べるという行動もおもしろいのではないか。（委員B）

(ウ) 前回の運営協議会のとき申し上げた内容がかなり進められていたのに非常に感激をしている。例えば、コンソーシアム、台湾、新構想ランドデザインに基づいた富士高との連携、体育の授業、R8教育課程 新科目「理数探究基礎」「データサイエンス」をこの半年間でかなり進められていたことは素晴らしい。

学校評価について、生徒自身は自己評価が低いのでCが多くなってくる。外部検定に挑戦する生徒の自己評価が低い、これだけ忙しい中では受けることはできない。もっと言えば目標に入れることが適切かどうかを考えていただきたい。もう少し、質問項目を削ってもよいのではないか。評価はHPに公開するので、外部の人が見やすいように整えればよい。どちらかと言えば、実際の取組の方が見たい。実際の取組をHPにあげた方がよい。こんな実績を出している、台湾に行けるんだという方が大事である。アピールすべきところをしっかりとアピールすることが大事である。（委員C）

(エ) 目標としておかしいと思うところがあるので検討してほしい。DXは進化している。企業とのコラボは他校への刺激にもなる。生成AIの使い方、便利なツールとしてではなく情報をいかにとつて自分に生かすかを生徒自身で学んでほしい。間違っ使用と大変なことになる。

台湾の学校との交流の取組は、スピード感があってよい。コミュニケーションはZoomでもお互い刺激になる。英語検定の練習を先生方が担当していて負担が大きい、先生方が協力し合って生徒の可能性を高めてほしい。学校の統合等大変だが、微力ながら協力できればいいと思う。（委員D）

(4) 事務連絡

学校関係者評価について、学校運営協議会委員へ依頼

以上